男女共同参画社会をめざして

Vol.15

かがやく

― あなたも、わたしも ―

特集 渥美雅子さん講演会
「これからの あなた と わたし」
～セカンドライフは3つのYで～

連載 かがやく個性たち

我孫子市

渥美雅子さん講演会

これからの あなた と わたし ～セカンドライフは3つのYで～

男女共同参画月間の 6 月 22 日、アビスタホールで、あびこ女性会議と我孫子市の共催による講演会「これからのあなたとわたし」を開催しました。講師の渥美雅子さん（弁護士・女性と仕事の未来館館長）は、お得意の講談を交えながら、定年後の夫婦のありかたや第二の人生について、弁護士としての豊富なご経験を基に講演されました。満員の参加者は、すっかり引き込まれて、充実したひと時を過ごしました。

３つのＹとは？

- yakuwari・・役割
- yūjin・・友人
- yogi・・余技

2007年問題って何？ これからのあなたと考えよう

「これからのあなた」というのは男性なら定年を迎えてから、女性ならば子育てを終えてからとイメージしていただければいいかと思います。2007年問題とは、団塊の世代が定年を迎えて職場を去っていく現象から派生する社会問題です。たとえば、少子化社会の中での労働力の確保、税金、年金、社会保険料等の財源の確保をどうしたらいいのか…などです。

一方、定年を迎えた方たちは、年金問題、高齢者医療制度、税制問題など経済的な問題に直面せざるをえません。「年金をもらっても働きたいか」というアンケートに22％が「働きたい」と答えています。今や60歳、65歳は元気いっぱいです。

平成18年に「高年齢者等の雇用の安定に関する法律」が改正され、国は高年齢者の雇用促進を重点施策にしています。そして、これからのあなたにとっては老後の経済的な安定とともに、もう一方で人間関係、家族関係が大きな問題となります。

熟年離婚？ ダブルスタンダードをかかえた熟年世代

結婚年数が20年以上のご夫婦が別れることを熟年離婚といい、40代も50代も、80代だってあります。統計では、一年間の平均離婚件数25～27万件中、熟年離婚件数は1975年に6,810件、30年後の2005年には40,395件と約6倍に増えています。その典型的なケースを分析すると、3つの原因が浮かんできます。

まず、60代熟年世代は戦後、学校では男女平等を教わり家庭では男尊女卑の躾を受けるという二つの価値観、すなわちダブルスタンダードの教育を受けてきました。

社会の中にもダブルスタンダードがあります。夫と妻の生涯賃金を比べると、だいたい男性は2億数千万円、女性は5、6千万円というのが平均です。夫は年功序列でどんどん稼ぎ、妻は子育て後に再就職しても、たいしたことはない。そうすると、夫と妻の考え方にも格差が生じ、離婚原因の一つとなっています。

２番目に、この世代は高度経済成長の時代に生きてきました。物質文明を追っかけ追っかけ手に入れ手に入れ、そのために夫も妻も頑張った、そして幸せだと思い込んできたその陰で、失ったものは何か。目に見えない人間的なコミュニケーションではないかなと思います。離婚するご夫婦に、何が原因ですかと問うと、「うちには会話がありません」と10人中10人がいいます。

３番目の理由としては、人生50年時代から、今や人生100年時代。人生が長くなって、子育てもした、仕事もした、それからの第二の人生が出てきたわけです。その時人は、今までとは違った別の人生を生きてみたい、自分らしさを取り戻して生きてみたい。生きなおし要求、自己実現の欲求を考えるようです。自分の人生に不充足感、不満足感があると、生きなおし要求が強く、離婚の動機となっています。

離婚に至る前に、これからの人生、楽しく幸せに充実した人生にしていくために『３つのＹ』の実行をお勧めします。

セカンドライフは３つのＹで

３つのＹとは、ローマ字で書くと頭にＹがつく言葉、「役割」「友人」「余技」のことです。

「役割」を持つことは生きがいにつながります。特に定年退職した男性は、家庭の中で奥さんを助けてあげる役割を持ってください。男性が料理教室で習ったカレーを作る、「ありがとう」と妻が喜ぶ、人間関係もよくなる、夫婦仲もよくなります。

家庭の中でも地域の中でも、役割を率先して引き受けるということが、これからの生活の中で大事かと思います。

実は、全国亭主関白協会というところで「新！亭主関白道」を提唱しています。そこの認定基準によれば、「３年経っても妻を愛している」が初段で、ずっといって五段が「愛妻と手をつないで散歩ができる」、八段は「ありがとう」、九段は「ごめんなさい」が言える。十段は「愛している」を照れずに言える。日本人の男性にはなかなか難しいですね。

「友人」をたくさん作る。夫婦で家にひきこもらないで、ボランティアの友人、趣味の友人、いろいろな友人をそれぞれが作りましょう。世界が広がり、夫婦の会話も増えます。

二人っきりであんまり向き合わないことですね。夫なり妻なりを、たくさんいる友人の一人として関わっていくのが夫婦円満のコツなんです。

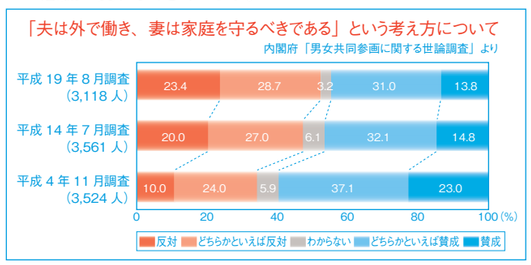
「余技」は「余る技」ですね。うまくなくても、手品でも楽器の演奏でもなんでもいいのです。余技をもつことは、自他ともに楽しめて、お互いにいい関係になります。私たち夫婦は10年前に講談塾を開き、30人くらいの塾生と一緒に年１回発表会をしています。また、老人ホームなどで出前講談をやったり、海外講演をやったりもしました。余技のお陰で人の輪がひろがり、張り合いと幸せを感じています。

３つのＹで、これからの人生を楽しくすごしていただきたいと思います。

当日のアンケートから

- ○ 同世代の人の話なので理解しやすいものがあった。亭主関白宣言が面白かった。私はせいぜい五段どまり。講談師の面目躍如。参加してよかった。(60代･男)
- ○ 主人が退職したばかりで今後どう生活しようかと悩んでおりました。３つのＹ、実践しようと思いました。わかりやすい話題、ひきつける話し方、楽しかったです。(50 代・女)
- ○ ダブルスタンダード。家庭・地域の中での役割が必要である。外での友人をたくさん作る。夫婦はいつも一緒でないほうがうまくいく。(60 代・女)
- ○ 日ごろ身近な夫婦のありようがとてもわかりやすく面白くてよかった。直面しているテーマについての内容は自分のことのようで引き込まれた。(60 代･女)
- ○ 会話の大切さ（向き合うこと）、思いやり、笑顔、肩の力を抜くことの大切さを感じました。(30 代以下・男)
- ○ 全国亭主関白協会の有資格者の話。ただし、私は初段で失格ですが。(70 代以上・男)

参考 固定的役割分担意識については、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、内閣府「男女共同参画に関する世論調査」の結果をみると、平成4年以降、『反対』『どちらかといえば反対』と回答する人の割合は増加傾向にあり、平成19年には、半数を超えています。人々の意識は変わってきています。



連載 かがやく個性たち ⑫

今回は、我孫子警察署で警察官として勤務している斎藤涼子さんと、ホームヘルパーとして活躍している寺田太郎さんに登場していただきました。

斎藤涼子さん
警察官（我孫子警察署）

★今の仕事を選んだ理由を聞かせてください。

大学で法律を学ぶうち少年事件に興味を持つようになり、一時は家庭裁判所の調査官を目指しました。しかし、少年の非行を未然に防止し、被害者の発生を防ぐことができるのは警察官ではないだろうかと思うようになり、今の仕事に就きました。今年で3年になりますが、現在は地域課に所属し、我孫子駅前交番に勤務しています。

★我孫子署には女性警察官は何人いますか。

署員約120人のうち、女性警察官は9人です。

★主にどんな仕事をしているのですか。

交番では女性警察官5人と男性警察官7人で、4人ずつ3交代で勤務しています。主な仕事は、110番通報の対応、巡回パトロール、交通の取締り、遺失物・拾得物の処理、立番（交番の前に立つ）などです。毎日がとても忙しいです。

★女性警察官として心がけていることはなんですか。

基本的に男性警察官と同等の地位と権限が与えられていますが、違いは腕力だと思います。事件が起きると現場に駆けつけるわけですが、その場合、犯人逮捕の場面では男性警察官の足手まといになる可能性があります。もちろん、気持ちは男性警察官と同じですが、自分が警察官として、今、何をすべきかを判断し、後方での連絡など的確な行動をとるよう心がけています。性犯罪のように女性が被害者の場合などは、女性警察官が担当します。女性ならではの気配りや親しみやすさが必要になることはたくさんあります。お互いの特性を生かしながら協力しあって勤務することが大切ではないでしょうか。

★仕事と家庭の両立について、どう考えますか。

結婚しても今の仕事は続けたいと思いますが、子育てを考えるとちょっと迷います。先輩警察官の方から「同僚同士で助け合ったり、その時その時でサポートしてくれる人がいるはずだから大丈夫」とアドバイスをいただきましたし、働く姿を子どもに見せることは大切だと思うので、私もできる限り頑張りたいと思います。

★後輩へエールを

短い職務経験なので言えるような立場ではありませんが、まだまだ女性警察官は少ないのが現状です。かつては男性社会であった警察署も、最近では女性警察官が勤務することで職場環境も整備されてきました。我孫子駅前交番には女性トイレが設置されましたし、産休や育休を取得している方もいるなど、少しずつですが女性警察官を支援する体制もできてきています。もっと、警察官をめざす女性が増えてくれればいいなと思います。

寺田太郎さん
ホームヘルパー（訪問介護員）

★これまでの経歴とヘルパーを目指されたきっかけは?

長年、輸出用の金属雑貨の製造、販売をやっていました。この仕事は、もはや日本では立ち行かない時代になっていました。そこで60歳を過ぎてからも、何か人の役に立ちこれからも必要とされる仕事をしたいと考えました。母親を妻と二人で30年間（脳梗塞による障害、うち10年間は車椅子生活）介護した経験も影響していると思います。ちなみに介護はわが家にとって昔から自然なことで、次男、長女とも現在、介護施設で働いています。

★ヘルパーの仕事の実際と、仕事上心がけていることは?

必要とされるお宅へ伺って、着替え、入浴のお手伝い等、生活援助、身体介護にあたるサービスを提供しています。約束の時間は絶対守るということと、プライバシーに特に配慮するということは、基本の基として心がけています。

★ヘルパーの仕事に必要な資質とは何でしょうか?

人が好き、話が好きなこと、でもお節介が過ぎてもだめ。何より大事なのは責任感。つまりどんな仕事にも必要なこと。

★ヘルパーの仕事以外にも、いろいろ活躍されておられると聞きましたが。

必要があって習得した上総（かずさ）掘り（井戸掘りの伝統的工法）でこれまで10井（せい）以上掘りました。他には、仲間と米作り、蕎麦作り、竹炭作り、援農も。また別に自家用の米も作っています。昔から、ものを作ること、身体を動かすことが大好きで、子供用ベッド、机などみんな手作りしました。要はいろいろな人と出会って、関わって、その中で、ものを作ったり、助け合ったり、そういうことが面白くってしょうがない。そういう意味で、ヘルパーの仕事と、それ以外のやっていることに違いはないのです。

同時に、妻にはずい分助けられています。妻も作ることが大好きで、キルトの大作、孫の服と一日中手を動かしています。

★後輩たちにエールを

これからますます必要とされる仕事だ、もっと職業としてのプロが出てきて欲しい。現場でも、もっと男性が必要とされている。量が不足している。男よガンバレ!

編集後記

セカンドライフ渦中の私には、渥美さんのお話のいちいちが身に滲みます。夫婦二人で向き合う時間が長くなり、今頃夫婦間のコミュニケーションの問題に直面しているのだ。要はお互いに相手を知っているようで知らないということ。さあ、ゆっくりやるか。（T．O）

■ 発行：我孫子市　■ 発行日：平成20年9月 Vol.15　■ 編集：『かがやく』編集委員会
我孫子市市民生活部 市民活動支援課 男女共同参画室　〒270-1192 我孫子市我孫子1858番地　TEL.04-7185-1111　この情報紙は再生紙を使用しています。